

1. 研究課題名：C-1002 ディーゼル起源ナノ粒子内部混合状態の新しい計測法（健康リスク研究への貢献）

2. 研究代表者氏名及び所属：

藤谷 雄二（独立行政法人 国立環境研究所）



3. 研究実施期間：平成 22～24 年度

4. 研究の趣旨・概要

大気中のナノ粒子の健康影響の可能性が指摘されている。ディーゼル車はナノ粒子の発生源であるが、環境中にてナノ粒子は低減していない現状である。ナノ粒子は粒径が小さいために、ナノ粒子の影響評価は従来の質量を基準とした粒子状物質の影響評価とは異なる考え方で評価しなければならない。毒性研究に必要な情報であるが、これまで全く明らかにされていなかった一粒子単位のディーゼルナノ粒子の化学成分（無機物・有機物）を、粒子の表面と内部の組成に分けてそれぞれ計測し、情報を得る為の手法を確立する。本研究で得られる知見はナノ粒子の毒性メカニズム解明、健康リスク研究に貢献することができる。

5. 研究項目及び実施体制

- 1 新しい計測法に最適なディーゼルナノ粒子の試料作成方法の確立（独立行政法人 国立環境研究所）
- 2 ディーゼルナノ粒子の内部構造分析（無機）（工学院大学）
- 3 ディーゼルナノ粒子の内部構造分析（有機）（東京工業大学）

6. 研究のイメージ

